

令和3年度 第2回学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立園芸高等学校
校長名	真鍋 政明

開催日時	令和3年11月29日(月)15:30~17:00
開催場所	大阪府立園芸高等学校 会議室
出席者(委員)	中桐貴生会長、小南修身委員、石田将人委員、西崎裕子委員、梶師登委員 大坪委員
出席者(学校)	真鍋校長、神教頭、橋詰首席、平尾首席、臼井首席、中野FF科科长、脇谷BS科科长 西村KR科科长、金沢普通科科长、北之防農場長、市原・高岡(記録)
傍聴者	0名
協議資料	(1)次第 (2)第1回授業アンケート(結果) (3)進路概要(結果)
備考	

議題等(次第順)
次第 (1)学校長挨拶、学校の現状説明 (2)授業見学感想 (3)第一回授業アンケートについて (4)進路状況について (5)その他 ・「オリジナルソース」について ・SDGsについて ・課題研究について ・スマート専門高校への取り組みについて
(1) 校長より学校の現状の説明 ・修学旅行→延期 ・創立記念祭→中止 ・学習成果発表会→実施 (2) 授業見学について 委員より ・定期的に授業見学をすることで、授業形態の移り変わりを見ることができた。 ・初めて授業見学をしたときに見比べて、この協議会の効果が見られる。 ・コロナ対応もしっかり取り組んでいる。・生徒→コロナ前の状態に戻つつある。 ・真面目に一生懸命頑張っていた。・生徒の成長を促すために、気を付けて授業を行うべき。 ・人から任せられる、自分で考えて行動することがいい経験になる。→社会に出てから生きる ・おとなしく授業を聞いている。・実習でも指示を聞いている ・科を越えての進路指導をしており、やる気のある生徒への力添えがある。 ・この学校でしかできないことをウリにするべき。 ・環境をよくしてることが大切。・生徒が主役になる授業の実践が必要。 (3) 授業アンケートについて 教頭よりアンケート結果の説明 ・1年→学びに対する意欲が高い、実技の方が特に意欲的 ・2年→中だるみが見える、教材活用の項目UP→モニターなどの活用から ・3年→慣れが出ている、意欲が低い(特に講義形式)、意欲探求するべき 委員より ・アンケートの中で一番良かったところは？

教頭より

- ・実技の授業が知識になった。（豆知識などの導入）

委員より

- ・3年のグラフが落ち込んでいるが、過去の3年と比べてどうか、教員から見た印象は？

教頭より

- ・意欲はある。

委員より

- ・3年が低い理由を探るために、過去と見比べるべき→差が見えてくるのでは？

校長より

- ・学科によって差がある。コロナの影響もある。

委員より

- ・意欲が、3年、2年、1年と上がっているのはいいこと。
- ・学校のポテンシャルの向上につながる。

委員より

- ・1～7の項目は機会があるかないかの問題→変動あり得る。
- ・8～9の項目を意識すべき。
- ・8はよし悪しがある。
- ・9をしっかりと考えるべき。
- ・知識は身に付くと当たり前になってしまう→実感できない。
- ・初めに分からないことを問いかける→最後にもう一度同じことを問いかける。
- ・そのことによって理解したことを実感→自信につながる。
- ・これらのことを計画的に取り組むべき。

（4）進路について

学校より

- ・近畿大学は指定校推薦募集方法が変更した。
- ・去年と比べて、専門学校に進む数が少ない。

委員より

- ・専門学校進学が少ない理由は？
- ・大学でもコロナのせいで、情報がなかなか入ってこない→決めかねている生徒が多い。

校長より

- ・農業関連で進路先をまとめることで農業高校として果たす役割が見えてくる。

（5）その他

学校より

- ・企業や大阪府研究機関と連携し「オリジナルソース」を開発した。
- ・課題研究発表会を学科の代表者の発表を実施(1/18)（アゼリアホール）を予定しているので、保護者も見れる環境を作るべきであり、昨年度見させてもらい、質疑応答の姿が良い、中学生にも見せるべきである。